



陵雲だより

学び合う子供の育成～道徳性を養いながら～

旭川市立陵雲小学校



「ふれあい」3題

校長 佐藤 聖士

<旭川市PTA連合会 北部ブロック教育講演会から学んだこと>

9月23日(木)18時、末広小を会場に講演会が開催されました。講師は子育てハッピーアドバイザーの吉田育子氏。こころの土台、自己肯定感を育む子育てについての御講演でした。子供の自己肯定感を育む具体的な方法として3点、スキンシップと話を聴くこと、ほめること、そして「ありがとう」を伝えることがあげられました。さらに、親自身の自己肯定感を大切にする必要性も説かれ、いそがしくとも気持ちにゆとりをもたせ、周りの方々に感謝を伝え、ときに握手しふれあうことの大切さを実感しました。

<『チコちゃんに叱られる!』から学んだこと>

少し前のことですが…8月23日(土)朝、運転中のナビからテレビの音声が流れ「ポーっと生きてんじゃねーよ!」と叱られてしまいました。前夜の再放送らしく、あとから調べると、NHK初回放送日は令和7(2025)年8月22日(金)19時57分。「なぜ人は手をつなぐ?…親子やカップルが手をつなぐ驚きの理由とは!〜後略」という特集でした。結論は「人が手をつなぐのは、痛みと不安が弱まるから」とのこと。当方が視聴したことを要約しますと…

- ・人は痛みを感じる時、脳内に痛み起因のストレスホルモンが出る
- ・大切な人と手をつなげると、脳内に愛情ホルモンが出る
- ・手をつなぐことで生じる愛情ホルモンは、痛み起因のストレスホルモンより優位である
- ・結果、痛み起因のストレスホルモンが減り、痛みが和らぐように感じる

という内容だったかと。手をつなぐ効果に改めて驚きつつ、大切なことをチコちゃんから学びました。

<再読した米国環境学者の著書から学んだこと>

高度情報化社会が到来しましたが、時代が変化しても、手作業やアナログ的な物、対面のコミュニケーションは社会からなくなりません。幼いころの本物にふれた様々な直接体験の積み重ねは、人が生きるために必要な“五感”を研ぎ澄まし、生命や安全を脅かす存在に対する危機意識を高め、自然への畏敬の念を育みます。1960年代、環境が悪化した米国で、社会に警鐘を鳴らした生物学者 レイチェル・L・カーソンは、著作の中で「知性を生み出す土壌」として右のような言葉を表しました。

「知性を生み出す土壌」より

感ずるということは 知ることよりずっと大切なもの
もしも事実というものが のちになって
知識や知性を生み出す種だとすれば
情緒や感情が従える 様々な印象は
その種が育つべき 豊穡な土壌だ
幼少時代というものは
この土壌をよく耕し 用意する時期
ひとたび子供が そういうことを
自分で見つけ出すことができれば
それは永続的な意味をもったものになる

令和7年9月、感染対策、著しい気温上昇、ヒグマ・スズメバチ・ダニなどの出現増など、野外の活動には細心の注意を払っていますが、コロナ禍以前の教育活動の価値を見つめ直し、身の回りの自然、何よりも多様な方々とふれあう体験の大切さを再認識しています。 深謝(9月29日記)

参観日、PTA奉仕作業(ガラス拭き)を実施しました

9月10日(水)の参観日には、多くの保護者の皆様に御来校いただき、ありがとうございました。各学年では、子供たちの発達段階に応じた授業を公開し、真剣に課題に取り組む姿や、自分の考えを発表する姿、友達と意見を交流する姿など、日頃の学習の一端を御覧いただけたことと思います。

また、参観後にはPTA奉仕作業(ガラス拭き)を行いました。約100名の保護者の皆様に御参加いただき、5・6年生の児童とともに、教室や廊下のガラス、棚などを丁寧に清掃していただきました。おかげさまで学校全体が明るく清潔な環境となり、子供たちもより一層気持ちよく生活することができます。

御協力に心より感謝申し上げます。



「いかのおすし」の看板を寄贈していただきました

このたび、「北進開発株式会社」様の御厚意により、両児童玄関前に「いかのおすし」の看板を設置していただきました。子供たちが毎日目にする場所に掲げられたことで、防犯意識を高める大きなきっかけとなります。

先日、子供たちの安全を願って設置していただいたことに対し、本校より感謝状をお送りいたしました。地域の皆様の温かい御支援に改めて心より感謝申し上げます。

「いかのおすし」は、子供たちが自分の身を守るための大切な合言葉です。今後も登下校や日常生活の中で意識し、安全に行動できるよう指導を続けてまいります。



秋の交通安全運動期間

秋の交通安全運動期間に合わせ、9月19日(金)に末広まちづくり実行委員会主催の「末広地域交通安全対策事業・街頭啓発運動」が行われました。当日は、約100名の町内会の皆様が参加され、交通安全旗を振りながら、自動車の運転者や通行する方々に向けて交通事故防止を呼びかけました。

本校でも、子供たちが登下校や遊びに出かける際に安全に行動できるよう、日頃から指導を重ねています。御家庭におかれましても、この機会にぜひお子様と一緒に交通安全について考え、日常生活の中で実践していただければと思います。